

「2025年の日本の姿」

- **省内係長程度以下の若手職員13名で構成する「2025年の社会の姿ワーキングチーム」が、「懇談会」の議論に資するよう約2か月半かけて真剣に議論し作成。**
- **数値や財政影響を予測するものではなく、2025年の社会像、生活全般のありようを「物語」として描いたもの。**
- **各メンバーの自由な意思により作成したものであり、厚生労働省はじめ政府による公式見解ではなく、施策の実施を約束するものでもない。**

(主な内容)

- ・ 子供を産み育てることは社会全体で支えるものという認識が高まる。
- ・ 夫婦による家事、育児の分担が一般化。
- ・ 家族とのふれあい、趣味、地域活動などに充てる時間が増加。
- ・ 社会保障負担が勤労意欲や経済活力を阻害しない程度の水準で安定。
- ・ 児童・家庭に対する社会保障給付の割合が増加。
- ・ 一時預かり、在宅保育、病児保育など多様な保育サービスが充実。
- ・ 時間当たり賃金はフルタイムやパートによる違いがなくなる。
- ・ 育児休業、看護休暇、勤務時間の短縮などの制度が利用しやすくなる。
- ・ 育児期間中に短時間勤務を選択しやすいような雇用管理。
- ・ 多様な働き方の選択が可能。育児期間中に夫婦で1.5人分の働き方。
- ・ 学歴ではなく物事への対応能力や人間性で人物を評価する社会。
- ・ 大学生は働きながら学ぶことが主流。本人への奨学金制度が充実。
- ・ 土地の高度利用（高層化、地下化）で都市部の地価が抑制。
- ・ 都市を流れる河川の水質が改善し、自然とふれあう場となる。